

# イノシシの増減傾向を探る！

～出猟カレンダーと捕獲個体の年齢分析～

## 研究の背景・目的

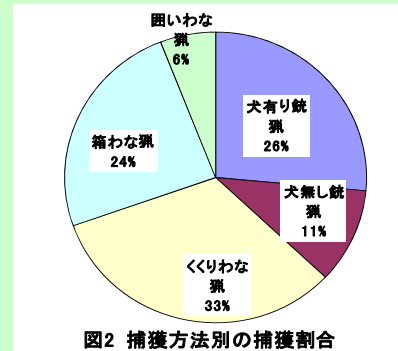
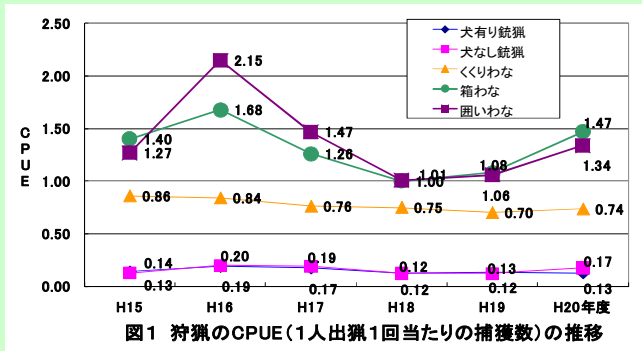
鳥根県では農林作物被害の軽減を図る目的で、H14年度からイノシシの「特定鳥獣保護管理計画」を施行して、捕獲目標を15,000頭に設定して捕獲圧を強めてきました。そのため、「特定計画」による個体数や被害の減少への効果について、モニタリング調査を実施します。

## 研究方法

- ①ハンターが記録した出猟カレンダーから狩猟期間の延長の効果やイノシシの個体数の増減傾向などを分析します。
- ②飯南町内で捕獲されたイノシシの下顎の歯の萌出状態(写真1)から年齢を推定して個体群動態を把握します。

## 研究状況

①イノシシの捕獲数を増やすために狩猟期間を前後に各半月間を延長していますが、延長した1ヶ月間で捕獲した割合は全捕獲数の18～23%を占めており、捕獲数の増加に大きく貢献しています。とくに11月前半は12～17%を占めて高い効果が出ています。H15～20年度の出猟カレンダーの分析から、CPUE(1人出猟1回当たりの捕獲数)はH16年度に箱わなと囲いわなで上昇し、H17、H18年度は次第に低下し、H19年度はほぼ横ばいとなりましたが、H20年度は箱わなと囲いわなで再び上昇しました。また、くくりわなと犬無し銃猟でもやや上昇しました(図1)。これらのことから、本県のイノシシ個体群はH20年度にはやや増加に転じたと考えられました。また、H20年度の捕獲方法は、銃猟37%、くくりわな33%および箱わな・囲いわな30%とほぼ同じ割合でした(図2)。



②H20年度は100頭を収集して、平均年齢は、くくりわな2.10才、箱わな1.47才および銃器3.33才、一方H21年度は80頭を収集して、平均年齢は、くくりわな2.30才、箱わな1.47才および銃器2.70才でした。箱わなではくくりわなや銃器に比べて子が多数捕獲されたことから、捕獲方法によって捕獲個体の年齢に差を認めました。また、両年の平均年齢には大きな変動は認めませんでした(図3)。

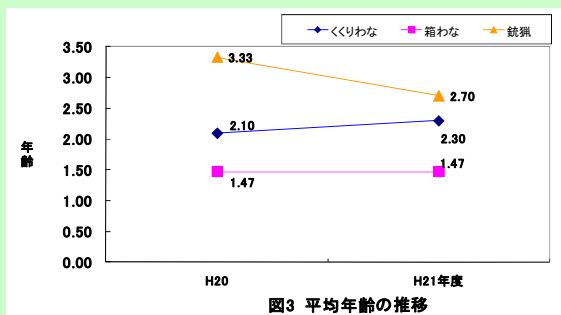


写真1 第3後臼歯が半分萌出した2.5才の下顎

## 研究成果の活用・今後の研究計画

- ①モニタリングの結果は、鳥根県有害鳥獣被害対策推進協議会や行政機関へ提供して、今後の対策に役立てます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
鳥根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 鳥根県飯石郡飯南町上来島1207

試験研究課題名:イノシシの保護管理技術と被害防除技術の確立 (研究期間:H18～22)

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 竹下 幸広(たけした ゆきひろ)

問い合わせ先 0854-76-3818

E-mail [chusankan@pref.shimane.lg.jp](mailto:chusankan@pref.shimane.lg.jp)